

# なんまぐ 山村ぐらし通信

※先月発行予定の「山村ぐらし通信第3号」は、編集作業の不都合により誠に勝手ながら一カ月の発行延期とさせていただきます。内容に経過した時間差を感じる表現もごさいますがご理解を頂きますようお願いいたします。  
(編集スタッフ一同)

秋も深まりつつある11月。予定から2ヶ月遅れとなつてしまつた「体験型民家」の運用が、各方面の協力の下、先月29日の開所式をもつて正式にスタートとなりました。

## 「体験型民家」の運用開始!

かけになれるような役割を

先月、10月29日(月)に行なわれた体験民家開所式をもつて正式に運用を開始した「なんまく暮らし体験民家」。事業に関わってきた役員・企画情報課、山村ぐらし支援協議会双方とつてまだまだ手探り状態でのスタートとなりまして、今後運用するに当たつて様々な課題や改善すべき点が見えてくることと思ひますので、都度、より良い方向に改善し利用者と共に繋がるのきつ



果たしてゆけることを期待しています。

このところ何度となく各メディアに取り上げていただいたこともあり、良くも悪くも受ける反響は大きく、窓口となる役場には見当違いな問合せも殺到。広報の仕方、説明の分かり易さ、規約等の早急な改定と見直しが必要なようです。ようやく動き出した「なんまく暮らし体験民家」。その開所式では協議会メン



お祝いに配られた薄紅色の「鳥の子餅」

バーの信濃屋・金田さんより記念の手作り和菓子「鳥の子餅」

が配られるサプライズもあり、その心遣いに遅まきながら感謝!そして表には出てこないながら様々なかたちで協力・支援を頂いた多くの方々に感謝いたします。繰り返しになりますが、ようやくスタートしたばかりの事業。これから一人でも多くの利用者がなんまく村に興味を持っていただけるような運用が出来るよう村民皆様のさらなるご理解をよろしくお願いいたします。く和菓子を貰い損ねた編集スタッフく

2012(平成24)年12月号  
通巻第3号版(秋季号)

発行責任者: 石井 悟  
問合せ 南牧村役場 企画情報課  
電話 0274-87-2011(代表)

紙面編集: 神戸 広  
発行元: 南牧山村ぐらし支援協議会  
代表者: 石井 裕幸

## 気が付きました? 大きな看板

暑かった今年の夏もようやく終わりに、朝晩の空気も涼しくなつてきました。これからは「寒い!」と言いたくなる季節がやってきますね。県道45号線沿い休養村センター敷地の看板を見ていただけましたか? 9/17に山村ぐらし支援協議会、明日の南牧を創る会による看板設置作業が行われました。思わず写真を撮りたくなるような看板ではないか? そこに描かれているのが村の公式マスコット「なんまぐちゃん」。まだまだぐんまちゃんほど有名ではないけれど南牧の良さを宣伝しようとして生まれてきました。名前の由来は未来を担う南牧村の子どもたち「南子(なんしい)」。「どの家でも我が子が生まれる前から名前を考え、生まれた子と対面してまた考え、この子の将来がすばらしいものであることを願い名前をつけますよね。この子も同じように、生まれてから家

### 24年度7~9月空家問合せ件数

電話による問合せ計	24件
(7月)	2件
(8月)	15件
(9月)	7件
メールによる問合せ計	7件
(8月)	3件
(9月)	4件
来村空家物件訪問計	6件
(7月)	1件
(8月)	3件
(9月)	2件



「象ヶ滝」「線ヶ滝」髪飾りは村の花「ひとつばな」村章をデザインしたかわいい黒い服を着て、手には村の特産品の炭を持っています。今年の三月に生まれたばかりですが南牧村のキャラクターとして村の子どもたちと同じように大きく育つてくれることを願っています。また空き家を一つでも有効利用し村の活性化に結び付けられるようこれからもメンバー一丸となり努力していきたいと思っています。く看板設置作業員く

## 「火とぼし」に参加して

群馬県庁地域政策課 過疎山振係 中村健太郎さん

「大日向の火とぼし」といえば「県重要文化財にも指定されている県内でも有名な火祭り」で、南牧村でお盆に行われる伝統的なお祭り」ということはだいぶ前から知っていた。一度は見に行きたいと、ここ数年思っていたが、幸いにも昨年・今年と単に見に行くだけでなくこの県内でも有名な「火とぼし」に参加させてもらえることになった。そ

## 我・想・明・村

自称: 南牧の一村民

~匿名さんの我想明村~

この世界には二種類の人間しかいない。それは、南牧村に住む人間とそこ以外に住む人間だ。この南牧村に住む人々は、この村ならではの夜明けを体感している。力強い日差しに照らされた山河を脳裏に焼き付けている。そして春に芽吹く草花を愛している。この地以外に住む人々の大多数は、その移り行く自然の殆どを知らないだろう。眼を知らぬ自然、その下に広がる自然、その一コマを見ただけで自然を感じたことにならない。 しまつてはちと淋しすぎる。 この谷の風はどこまでも透明でいつまでも爽やかさを持つて迎えてくれる。山の木々は色移ろい、川は飛沫をあげて流れてゆく。 時に厳しく、時に優しい南牧の自然。それは他とは違う感動と緊張を醸し出し、さらなる営みへの活力を生みだしてくれると思う。村内で積極的に活動している各団体・個人の活動を通して、この南牧の地に住み、南牧の自然を感受してくれる方がふえることを願って止まない。